

研 究 分 野	資源評価	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	重要魚類資源モニタリング調査（底魚資源調査）		
予 算 区 分	水産総合研究センター費		
試験研究実施年度・研究期間	H19～H23		
担 当	高橋 宏和		
協力・分担関係	なし		

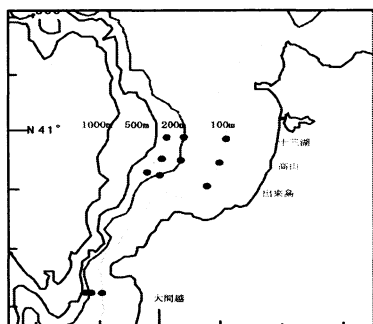
〈目的〉

青森県周辺海域の重要水産資源である底魚類の分布状況や発生状況を継続的・定期的にモニタリングすることにより、精度の高い漁況予測と資源診断に必要な情報を収集、資源の安定的な確保に資する。

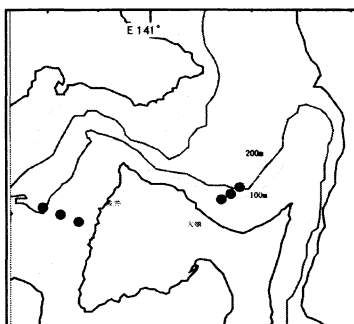
〈試験研究方法〉

日本海、津軽海峡及び太平洋海域において 34 ヶ所の調査点を設定し、試験船青鵬丸により、平成 20 年 4 月～平成 21 年 2 月にかけて網口約 2m のオッターロール網を使用し、約 30 分の曳き網調査を実施した。

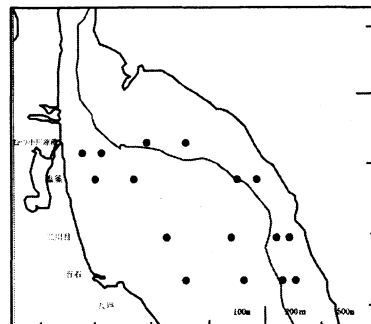
採捕されたサンプルの体長、体重を測定した。



（日本海）



（津軽海峡）



（太平洋）

図 1 調査地点

〈結果の概要・要約〉

太平洋の 6 月におけるマダラ、スケトウダラの現存量尾数を面積密度法により推定した。両魚種共、当歳魚と思われる標準体長 6cm 前後の個体が多く出現した（図 2、3）。

日本海では 11 月につがる市高山沖と出来島沖水深 300m 付近で採捕されたハタハタは、オスで標準体長 15～16 cm、メスで 17～18 cm であった（表 1、図 4）。

〈主要成果の具体的なデータ〉

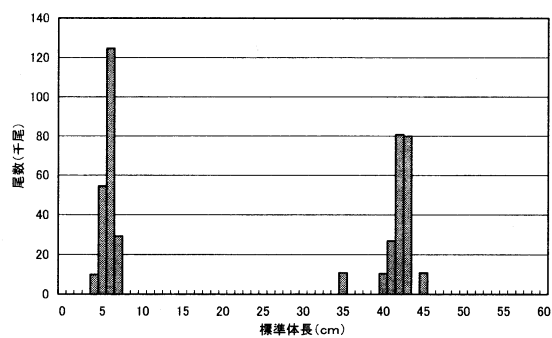


図 2 マダラ体長組成

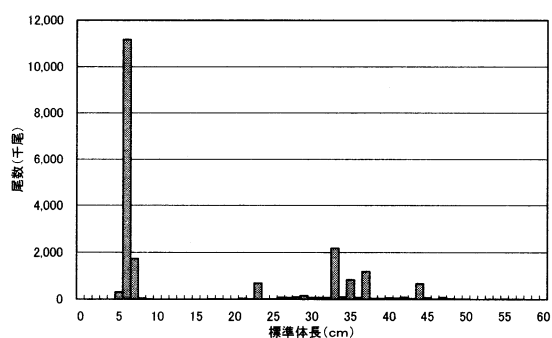


図 3 スケトウダラ体長組成

調査年月日	調査場所	水深 (m)	ハタハタ個体数 (尾)		
			オス	メス	合計
H20. 11. 11	高山沖	196	0	0	0
		302	42	22	64
H20. 11. 12	出来島沖	100	0	0	0
		150	0	0	0
H20. 11. 13	出来島沖	200	0	0	0
H20. 11. 17	高山沖	100	0	0	0
		150	0	0	0
	出来島沖	300	37	17	54
合計			79	39	118

表 1 ハタハタ分布状況

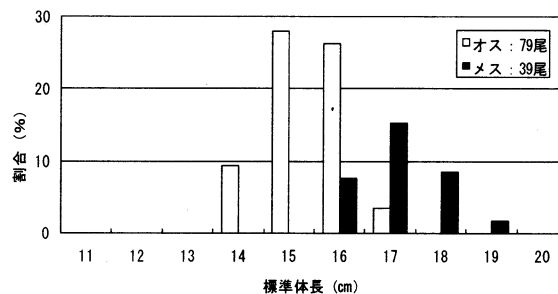


図 4 ハタハタ体長組成

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同じ調査を実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・平成 20 年度日本海漁業者協議会でハタハタ調査結果について発表。
- ・平成 20 年度東北ブロック底魚研究連絡会議でスケトウダラとマダラの調査結果を報告。
- ・新深浦町漁協岩崎支所・鰯ヶ沢漁業協同組合のヤリイカ・ハタハタ勉強会で調査結果を発表。